

スーディ・よもやま話 No.2

動き出した新プロジェクトに関連し、SUDIのメンバーが今最も関心を寄せているのが、「タオル」。何気なく手にしているけれど、日々の生活に欠かすことのできないデイリーグッズに注目しています。年齢とともに私たちのお肌の状態も変化していきます。肌に直接触れるものですから、ちょっと視野を広げて、タオルの選択肢を広げてみましょう。

UCHINO「しあわせタオル」

吸水性が高く（1秒吸水！）乾きも早い。最大の魅力は短めなループの毛足が持つ柔らかな肌触りです。厳選コットンが使われていて、洗濯しても毛羽立たず、ふんわり柔らかさが持続します。50cm×100cmのスモールサイズは小柄な私にピッタリサイズ。（宮園）

Enjeau（アーンジョー）

「シェニール織のハンドタオル」

スコットランド発祥のシェニール織はドイツ・フェイラー社が有名ですが、日本には明治初期から「高野山」の登山口である和歌山県の高野口で作られてきました。シェニール織は表と裏に同じ絵柄を織りなす特殊なモール織物です。シーエスワールド株式会社が販売している23cm角のハンドタオルは、パイル部分が綿100%、地糸は綿68%・ポリエステル32%、優しく手になじみ、美しい色柄が大好きで愛用しています。（若松）

東レ+伊澤タオル「3Dタオル」

ポリエステルに綿を巻き付ける構造で速乾性を高めたハイブリッド次世代タオルです。綿100%タオルが持つ高い吸水性、柔らかな手触りはそのままですが、速乾性を高め（乾燥時間は綿タオルの2/3だそう。）洗濯による風合いの劣化も改善されています。また、リサイクル素材を使い、乾燥機の使用が減り節電できることから、環境保全にも貢献できることとなります。（島田）

浅野撚糸+今治・正岡タオル「Perfect10」

特殊加工により繊維の間にたっぷりと空気が含まれ、ふわふわで吸水性も抜群の浅野撚糸のタオル。なかでも、この夏に一般発売される「Perfect10」は、100点満点、非の打ち所がない究極のタオルだそうです。今まではタオルに特にこだわりのなかった私ですが、従来のタオルと肌触りが違うので、ちょっと感動しています。タオルに存在感があって、気持ちよさを「主張」しているんですね。ふわふわで軽いのはもちろんですが、今までは違うレベルの肌触りの気持ち良さを感じます。摩擦抵抗が少なく、お肌や髪にとっても優しいとのこと。SUDIメンバー全員が注目しているタオルです。（石川）

IKEUCHI ORGANIC「ストレイツ 220」

タオルといえば綿100%と思いがちですが、エコな新素材もあります。オーガニックコットン86%、レーヨン(竹繊維)8%、ポリエステル6%のこのタオルは、3つの素材それぞれの良いところを特徴に持ち、吸水性、速乾性、軽さのバランスがとても良いです。もちろん肌ざわりもソフト。ポリエステルは土に還るエコファイブです。60×120cmとサイズが小ぶりなところも気に入っています。（島田）